

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ハピネット

コード番号 7552 URL <http://www.happinet.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 苗手 一彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役最高財務責任者 (氏名) 浅津 英男

四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日

TEL 03-3847-0521

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	151,651	15.3	2,225	4.1	2,391	4.0	1,360	10.2
21年3月期第3四半期	131,473	—	2,137	—	2,298	—	1,235	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	120.38	—
21年3月期第3四半期	105.58	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
22年3月期第3四半期	69,734	—	18,954	—	27.2	—	1,692.11	
21年3月期	54,661	—	18,184	—	33.3	—	1,599.08	

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 18,954百万円 21年3月期 18,184百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
22年3月期	—	15.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	200,000	19.9	2,300	7.6	2,500	7.6	1,300	14.4	114.32

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 12,025,000株 21年3月期 12,025,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 823,125株 21年3月期 653,005株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 11,302,100株 21年3月期第3四半期 11,698,735株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部に持ち直しの動きが見られたものの、企業収益は依然低迷しており、雇用情勢は厳しさが増す中で、個人消費につきましても所得環境の悪化により引き続き厳しい状況で推移いたしました。

当社グループの関連業界におきましては、玩具市場では、一部のキャラクター商材が好調に推移したものの、少子化や消費者ニーズの多様化により、引き続き厳しい環境で推移しております。映像音楽市場では、ブロードバンドインフラの普及を背景にインターネットにおけるコンテンツの配信等が進んでおり、パッケージ市場が苦戦を強いられており、ビデオゲーム市場につきましても、年末に大型タイトルが発売されたものの、ハードの普及の一巡やソフトのタイトル数不足により低調に推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは当連結会計年度よりスタートした第5次中期経営計画に基づき、エンタテインメント総合商社としての基盤の強化を図るために、事業構造改革の推進や市場シェア拡大策を図ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は151,651百万円（前年同期比15.3%増）、営業利益は2,225百万円（同4.1%増）、経常利益は2,391百万円（同4.0%増）、四半期純利益は子会社の合併による税効果会計の影響等により1,360百万円（同10.2%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

①玩具事業

中核事業であります当事業は、引き続き厳しい市場環境で推移している中、売上高につきましても、主力のバンダイ商材で「仮面ライダー W（ダブル）」、「フレッシュプリキュア！」をはじめとした男女児キャラクター商材が好調に推移し、当社グループとしては順調に推移いたしました。

利益面に関しましては、在庫管理をはじめとした徹底的な効率化の推進により在庫処分の削減等が図られ、大幅に改善されました。

この結果、売上高は44,663百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益は1,450百万円（同169.0%増）となりました。

②映像音楽事業

売上高につきましても、市場全体が低迷する中、平成21年3月に音楽・映像ソフトの販売大手であります株式会社ウイントを子会社化したことにより、当社グループの当事業における流通シェアが拡大し、前年同期を大幅に上回りました。

利益面に関しましては、共同製作出資作品の「クローズZEROⅡ」等のヒット作があったものの、株式会社ウイントにおいて在庫効率化を図る事を目的に在庫評価の見直しを実施したことや、のれん代の影響等により苦戦を強いられました。

この結果、売上高は51,936百万円（前年同期比96.3%増）、営業利益は232百万円（同81.8%減）となりました。

③ビデオゲーム事業

市場全体が好調だった前年同期を大幅に下回って推移している中、当社グループにおきましても、市場を牽引するようなヒット作がなかったことにより、苦戦を強いられました。

この結果、売上高は36,664百万円（前年同期比16.8%減）、営業利益は982百万円（同17.8%減）となりました。

④アミューズメント事業

玩具自動販売機商材で市場を牽引するようなリード商材がなかったものの、バンダイ「仮面ライダーバトルガンバライド」をはじめとしたキッズカードゲーム機が好調に推移いたしました。利益面に関しましては、事業構造改革の効果により大幅に改善されました。

この結果、売上高は12,110百万円（前年同期比10.2%減）、営業利益は412百万円（同5785.7%増）となりました。

⑤その他事業

主力のコンビニエンスストア向けのトレーディングカードでバンダイ「バトルスピリッツ」、タカラトミー「デュエルマスターズ」などのヒット商品があったことにより、売上高、利益とも好調に推移いたしました。

この結果、売上高は6,276百万円（前年同期比22.4%増）、営業利益は135百万円（同181.3%増）となりました。

なお、従来、「映像関連事業」として事業区分をしていたものを、第1四半期連結会計期間より「映像音楽事業」と名称を変更いたしました。この変更による損益に与える影響はございません。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は、前連結会計年度末に比べ15,072百万円増加し、69,734百万円となりました。その主な内容は、以下のとおりであります。

流動資産につきましては、15,725百万円増加し60,589百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金の増加16,983百万円と、商品の減少547百万円によるものであります。流動負債におきましては、14,655百万円増加し47,827百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の増加16,157百万円と、短期借入金の減少790百万円、事業構造改善引当金の減少867百万円によるものであります。この結果、流動比率は126.7%となりました。

固定資産につきましては、652百万円減少し9,144百万円となり、固定負債におきましては、352百万円減少し2,952百万円となりました。

純資産につきましては、770百万円増加し18,954百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加1,021百万円と、自己株式の取得216百万円によるものであります。この結果、自己資本比率は27.2%となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期につきましては、概ね当初の見通しに沿った業績で推移しております。通期の見通しは、前回予想（平成21年5月12日に発表した通期連結業績予想）に対し、変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,922	5,463
受取手形及び売掛金	42,132	25,149
商品	8,778	9,325
貯蔵品	25	20
その他	4,077	5,533
貸倒引当金	△346	△629
流動資産合計	60,589	44,864
固定資産		
有形固定資産	1,711	1,952
無形固定資産		
のれん	1,518	1,868
その他	2,660	2,620
無形固定資産合計	4,179	4,488
投資その他の資産		
投資有価証券	1,669	1,742
その他	1,942	1,747
貸倒引当金	△358	△133
投資その他の資産合計	3,253	3,355
固定資産合計	9,144	9,797
資産合計	69,734	54,661
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	36,906	20,748
短期借入金	4,350	5,140
1年内返済予定の長期借入金	285	380
未払法人税等	635	433
賞与引当金	221	445
ポイント引当金	5	6
事業構造改善引当金	322	1,189
返品調整引当金	42	49
その他	5,058	4,778
流動負債合計	47,827	33,171
固定負債		
長期借入金	217	430
退職給付引当金	1,432	1,356
負ののれん	99	128
その他	1,202	1,389
固定負債合計	2,952	3,305
負債合計	50,779	36,476

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,751	2,751
資本剰余金	2,776	2,776
利益剰余金	14,350	13,328
自己株式	△1,116	△900
株主資本合計	18,761	17,955
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	193	228
繰延ヘッジ損益	0	0
評価・換算差額等合計	193	229
純資産合計	18,954	18,184
負債純資産合計	69,734	54,661

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	131,473	151,651
売上原価	115,961	134,493
売上総利益	15,512	17,158
販売費及び一般管理費	13,374	14,932
営業利益	2,137	2,225
営業外収益		
受取利息	7	4
受取配当金	59	41
負ののれん償却額	19	28
保険解約返戻金	33	—
匿名組合投資利益	—	58
その他	88	100
営業外収益合計	209	233
営業外費用		
支払利息	7	43
為替差損	16	—
リース解約損	8	—
その他	15	24
営業外費用合計	47	67
経常利益	2,298	2,391
特別利益		
固定資産売却益	5	3
投資有価証券売却益	19	11
貸倒引当金戻入額	17	26
特別利益合計	42	41
特別損失		
固定資産売却損	10	14
固定資産除却損	39	55
投資有価証券売却損	9	1
投資有価証券評価損	30	1
減損損失	56	—
子会社株式売却損	—	0
会員権評価損	—	6
事務所移転費用	—	69
特別損失合計	147	148
税金等調整前四半期純利益	2,192	2,285
法人税、住民税及び事業税	853	659
法人税等調整額	89	265
法人税等合計	943	924
少数株主利益	14	—
四半期純利益	1,235	1,360

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,192	2,285
減価償却費	362	618
減損損失	56	—
のれん償却額	160	321
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△24	△57
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△182	△223
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	70	75
事業構造改善引当金の増減額 (△は減少)	△951	△867
受取利息及び受取配当金	△66	△46
支払利息	7	43
固定資産除売却損益 (△は益)	45	66
投資有価証券売却損益 (△は益)	9	△9
投資有価証券評価損益 (△は益)	30	1
会員権評価損	—	6
為替差損益 (△は益)	16	△7
売上債権の増減額 (△は増加)	△14,684	△17,110
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,748	541
仕入債務の増減額 (△は減少)	13,412	16,157
その他	1,240	1,624
小計	△52	3,418
利息及び配当金の受取額	66	46
利息の支払額	△6	△44
法人税等の支払額	△171	△447
営業活動によるキャッシュ・フロー	△164	2,972
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	88	517
有形固定資産の取得による支出	△266	△111
有形固定資産の売却による収入	17	53
無形固定資産の取得による支出	△609	△870
投資有価証券の取得による支出	△160	△9
投資有価証券の売却による収入	150	54
子会社株式の取得による支出	△232	—
その他	331	62
投資活動によるキャッシュ・フロー	△682	△303
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,000	2,000
短期借入金の返済による支出	—	△2,790
長期借入金の返済による支出	—	△307
自己株式の取得による支出	△514	△216
配当金の支払額	△352	△337
その他	△197	△49
財務活動によるキャッシュ・フロー	△64	△1,700
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△927	976
現金及び現金同等物の期首残高	5,837	4,945
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,909	5,922

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	玩具事業 (百万円)	映像関連 事業 (百万円)	ビデオ ゲーム 事業 (百万円)	アミュー ズメント 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	42,321	26,454	44,080	13,488	5,127	131,473	—	131,473
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	42,321	26,454	44,080	13,488	5,127	131,473	—	131,473
営業利益	539	1,277	1,195	7	48	3,068	(930)	2,137

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	玩具事業 (百万円)	映像音楽 事業 (百万円)	ビデオ ゲーム 事業 (百万円)	アミュー ズメント 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	44,663	51,936	36,664	12,110	6,276	151,651	—	151,651
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	44,663	51,936	36,664	12,110	6,276	151,651	—	151,651
営業利益	1,450	232	982	412	135	3,213	(987)	2,225

- (注) 1. 事業の区分は、商品の種類、性質、販売方法、販売市場等の類似性を考慮して区分しております。
2. 従来「映像関連事業」として事業区分をしていたものを、第1四半期連結会計期間より「映像音楽事業」と名称を変更いたしました。この変更は、平成21年3月10日付で株式会社ウイントの株式を取得し、子会社化したことにより、当社グループの音楽事業の重要性が高まったためであります。なお、この変更による損益に与える影響はございません。
3. 各区分に属する主要な商品

事業区分	主要商品
玩具事業	男女児一般玩具等
映像音楽事業	映像・音楽ソフト等
ビデオゲーム事業	ゲーム機、ゲームソフト等
アミューズメント事業	アミューズメント機器・景品等
その他事業	雑貨、トレーディングカード等

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。